

第33回 通常総会 議案書



日

時

2022年3月3日(木)

13:00 開会



パルシステム生産者・消費者協議会

東京都新宿区大久保2丁目2-6 ラクアス東新宿 TEL (03)5292-8250

パルシステム生産者・消費者協議会

第33回 通常総会

《次第》

1. 開会の辞
2. 代表幹事挨拶
3. 来賓挨拶
4. 議長選出
5. 書記任命・議事録署名人選出
6. 議案審議
第1号議案 2021年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件
第2号議案 2022年度活動方針並びに予算案承認の件
7. 議長解任
8. 閉会の辞

もくじ

第1号議案	2021年度活動報告並びに 決算報告・監査報告承認の件-----	1
第2号議案	2022年度活動方針並びに 予算案承認の件-----	1 2
【資料】	-----	1 4
【会員名簿】	-----	3 2

第 1 号議案

2021年度活動報告並びに決算報告・監査報告承認の件

《2021年度の振り返り》

前年に引き続き、2021年も新型コロナウイルス感染の影響を受けました。2021年年明けから9月末までの長期間にわたり「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が発令されたことにより、総会を始め、ブロック会議、青年農業者交流会や女性生産者交流会といったイベントだけでなく、幹事会や生産者運営委員会、消費者運営委員会のような役員参加の会合についても集合ではなくオンライン開催となりました。ワクチン接種が進んだこともあり、10月以降役員のみ集合する会合がいくつか開催されましたが、オミクロン株の影響もあり、集合開催の完全な再開にはまだ時間が必要と思われます。

3月の通常総会では生産者幹事が、6月のパルシステム会員生協総代会では消費者幹事が数名交代し、新しい顔ぶれでの運営が始まりました。いまだ役員全員一堂に会す集合開催は実現できていませんが、オンラインを利用し可能な範囲でコミュニケーションを継続しています。

今年度の特徴としては、年度方針に「部会活動の活性化」を掲げていることもあり、各部会での活動検討が進み始めました。部会内での産地プレゼンテーションによる各産地の取り組み事例の共有や、会議のオンライン化による参加範囲を広げた部会、消費者幹事との意見交換・交流会の開催、などが取り組まれました。次年度へも引き続き、生産者同士が連携しさらに活動の進展が期待されます。

また、次世代リーダー研修は2年ぶりとなり、オンライン開催となりましたが59名の生産者・生協職員が参加しました。従来よりも短時間の運営となりましたが4回の連続企画として学び、また、参加者同士の交流を通じて絆を深め、産直の未来を考えてきました。

2021年5月には農林水産省が「みどりの食料システム戦略」を策定し、2050年までに化学農薬使用量50%低減や有機農業取り扱い面積割合25%（100万ha）拡大などの目指す姿を打ち出しました。コア・フードや農薬削減プログラムの推進、産直四原則等の以前から取り組んでいるパルシステム産直の方向性に、時勢が追い付いてきたものと認識しています。これまでの活動の成果を踏まえながら、さらに歩みを進めていきます。

《重点方針と具体的施策》

I 生産者と消費者のくらしを見つめ、地域を創造します

1. 直接交流する機会を持たず、つながりが希薄になる中で、生産者と消費者が同じ生活者としてお互いのくらしを想像し、課題を共有します。

(1) 女性生産者交流会(11/12)が開催され、生産者15産地34名、パルシステム関係者53名、計87名の参加がありました。今回はグループ交流を基本に、第1部のテーマは「くらしの課題」として余剰野菜について、野菜の保存方法、鳥獣被害、コロナ禍での産地の工夫、食品ロスのこと、農産物の品質や食味のこと、オンラインやリモートの対応について、コロナ禍で変化した身近なことなど、生産者と消費



▲女性生産者交流会の参加者

者双方が幅広く意見交換や情報共有しました。第2部は生産者同士の交流会としてフリートークを行いました。お互いの産地の様子、農産物に関わる情報交換や地域への取り組みについてなど、共通する課題では参加者同士でのアドバイスが積極的に行われました。

(2) 次世代リーダー研修では計4回開催し、9グループ全て同じメンバーで意見交換をおこない、参加者である生産者・生協職員との交流を深めました。産地交流や研修などの機会が制限される中、オンラインの形式ではありましたがそれぞれが抱える課題やこれからの夢を語り合いました。産直の活動に携わる者同士が、それぞれの業務に対してどのように関わられるかなど、お互いの課題を自分ごととしてとらえ議論しました。

2. パルシステムグループの2030年ビジョンについて理解を深め、産地ビジョンの見直しを含めて、生産現場の高齢化や、生産量の減少などの課題への対応力を高めていきます。

(1) 次世代リーダー研修のテーマを「10年後パルシステムの産直を考える」とし、パルシステム連合会渋谷温之専務理事よりパルシステム2030ビジョンについての講演をいただき、元ジーピーエス代表取締役専務野村和夫氏より「産地ビジョンづくりの意義」を学びました。

(2) 近郊産地の夏の部会では近郊産地の産地ビジョンの振り返りと現在の到達点について報告がありました。新型コロナウイルスによるパルシステムの大幅な受注増と、産地交流のオンライン化など、ビジョン策定当初は想定していなかった状況を踏まえ、計画の見直しの必要性について共有しています。

3. 「産直4原則」の、「生産者と組合員相互の交流ができること」を再認識し、生産者と消費者の交流を通して活気のある地域をつくります。また、これまで交流機会のなかった会員産地の参加を強化し、生産者と消費者との交流を広げていきます。

(1) 会員産地の集まる会議体ではグループディスカッションを多用し、各産地の状況や交流の取り組みなどについて意見交換がされました。参加した生産者からは「これまで定期的に生産者と消費者との交流が行われていたがコロナ禍となり交流が途絶えてしまった。早く交流を再開したい」と語られ、当たり前だった交流の重要性を改めて認識しました。

II 持続可能な農業の推進、未来を考えます

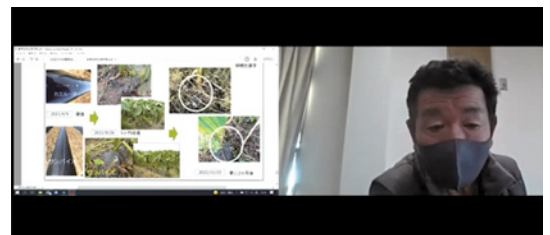
1. 気候危機の中でも、安定生産・安定供給を目指します。部会事務局をパルシステム連合会産直事業本部とし、各部会の農業技術の交流・情報交換により、産直産地のレベルアップへとつなげていきます。

(1) 米部会では各米産地の産地プレゼンを各回で実施しました。従来は公開確認会時の米産地研修という形でしか他産地の取り組みを理解する機会がありませんでしたが、産地プレゼンをすることで各産地のプレゼン力のアップ、産地間での技術の交換、課題の共有などを行うことができました。



▲米部会での産地プレゼン

(2) 野菜部会では近郊産地部会の春・夏・秋、それぞれの部会へ全国の産地からのオブザーバー参加という形で枠を広めて開催しました。生分解性プラスチックマルチ試験栽培、ネコブセンチュウ対策、サツマイモの基腐病に関する学習、鳥獣害対策などに関して情報交換していきました。



▲近郊産地部会での生分解性マルチの実践報告

(3) 果樹部会では、産直事業本部が開催している「みかん会議」「りんご会議」とは別に生産者主体での意見交換の場として会合を持ち各産地での課題の共有や情報発信・交流の展開などについて論議しました。みかんとりんごの2品目から始め、他の品目への展開についても模索します。

(4) 畜産部会では、「コア・フード」商品に関しての基準（畜産）改定に関する議論、産地プレゼン、飼料情勢などについて意見交換を行いました。

(5) 鶏卵部会では、消費者幹事と「たまごファンをもっとつくろう！」をテーマにディスカッションを行いました。組合員に対して産直たまご購入点数増に向けた施策、栄養の誤解を解くための働きかけ、市販とパルシステムの卵の違いの広報、生産者の顔を覚えてもらうための取り組み、などについて様々なアイデアが出されました。

2. 会員産地・生協の未来を担う人材を、育成するための研修会を開催します。

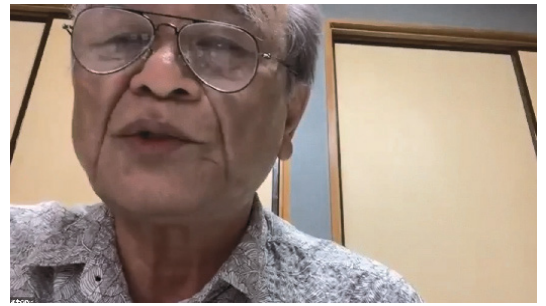
次世代リーダー研修を全4回、オンライン形式にて開催しました。今回は「10年後パルシステムの産直を考える」をテーマにパルシステム2030ビジョンを題材に、自組織の10年から20年先のビジョンを作っていくプロセスを学ぶ。」を開催趣旨に、座学とグループワークの構成で実施していきました。

(1) 第1回(8/5)はパルシステム連合会渋澤温之専務理事より「パルシステム2030ビジョン実現に向けた産直事業の進化」について講演をいただきました。現状の環境認識から今後に向けた課題整理と対策、コア・フード商品利用実績、ジーピーエス内部化と産直の強化、2030ビジョン(たべる、つくる、ささえあう、わかりあう)などについて触れお話しいただきました。参加者は9グループに分かれ「お互いを知り合おう！」をテーマに自己紹介し合い、情報交換しました。



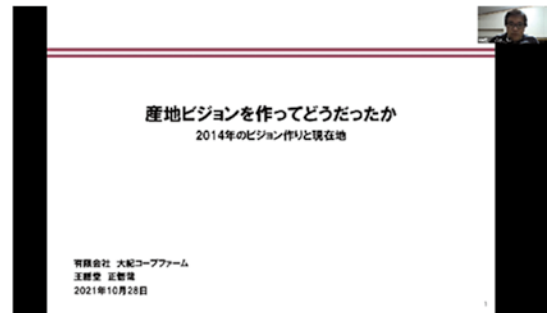
▲次世代リーダー研修参加者

(2) 第2回(9/9)は元ジーピーエス代表取締役専務の野村和夫氏より「青果・米産直の歴史といま、産地ビジョンを作るために」と題し講演をいただきました。パルシシステムの先駆けであった時代状況や、事業連合と青果専門子会社としてのジーピーエス、パルシシステムの商品政策と近郊産地との連携、公開確認会の取り組み経緯、産地ビジョンの作る過程とその意義、などについてお話しいただきました。参加者は9グループに分かれ「夢を語ろう!」をテーマに意見交換しました。



▲野村和夫氏より産直の歴史について講演

(3) 第3回(10/28)は「産地ビジョンを作成して」をテーマに、すでに産地ビジョンを作成した王隠堂正悟哉関西・以西ブロック副ブロック長(大紀コープファーム)と山下一樹幹事(アップルファームさみず)からそれぞれ報告がありました。ビジョン作成の過程や、作成した後のメンバーの意識の変化などについて触れられ、参加メンバーからは創業メンバーとの意見のすり合わせ方などについて意見が出されました。その後、「パルシシステムの生産者・消費者・職員の関係の10年後をどう考える? ~生消協のビジョン~」をテーマに意見交換しました。



▲産地ビジョン作成の経験を共有いただきました

(4) 第4回(12/8)は最終回として、グループワークを中心に行いました。参加者には事前の宿題として、「生産者・消費者・職員の関係について今後10年後にあってほしい姿を一言で表す」と「その姿に向けて参加者自身が行うこと」をそれぞれまとめ、報告し合いました。グループディスカッション終了後、各グループ代表者から意見交換内容の報告がありました。「産直の原点に立ち返りながら今の時代に合わせた情報発信を心掛ける」、「生産者個人の物語を伝えていきたい」、「五感を大事にする」、「パルシシステムに関わる生産者・職員・組合員がそれぞれの生活をイメージし寄り添っていく」、「生産者は産地動画を作成する」、「課題解決に向けてお互いに何ができるかを考える」、など今後の行動に向けた意思表示があり閉会となりました。

3. 産地での労働力問題について、各産地での事例や課題を共有し、課題解決につなげます。

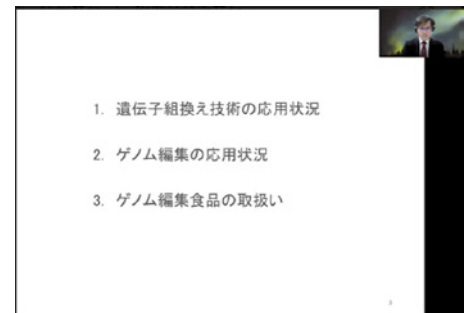
(1) ブロック会議や部会活動での産地状況の意見交換では、生産者の高齢化や離農などの影響により、現役生産者の規模拡大と土地の集約化、そのことによる手間をかけた生産活動が難しくなっている状況などが報告されました。一方で、新規就農者のサポート体制などについても事例共有がされました。

4. 「ほんもの実感!」くらしづくりアクションと関連し、消費者の理解促進や消費拡大、食料自給率向上の取り組みを進めます。

(1) 産直連続講座が各会員生協にて行われ、25回(20産地)開催されました。オンラインがメインとなりましたが、産地プレゼンや農作業現場との中継などを通じ、産地取り組みの共有と生産者と組合員の交流が進められました。

5. 食の安全や、生産活動を脅かしかねない法や制度の改廃等に対し、学習や行動を適宜行っていきます。

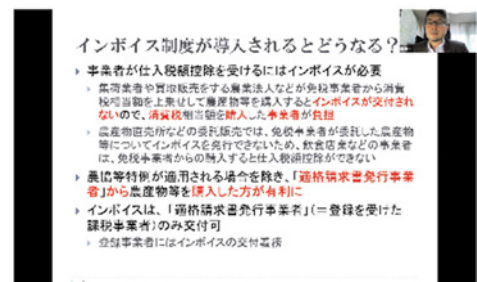
(1) 「ゲノム編集食品学習会」(4/23)をパルシステム協会との共催で開催し、約155アカウントの参加がありました。北海道大学石井教授より、産地、生産者、メーカーの今とるべき行動を主テーマとして講演いただきました。この講演では、「ゲノム編集は100%ねらった箇所を切断できるのではなく、その後の選抜が重要である」ことや「確認手段はあるものの意図しない外来核酸の組み込みなどがおきても評価方法が確立していないこと」「米国における表示はNon-GMOとなっており消費者がオーガニックと勘違いする」ことなどの話がありました。また、石井先生からは団体としてゲノム編集食品に対して立場を表明する時はその根拠を丁寧に説明する必要があるとの助言をいただきました。



▲協力会共催で「ゲノム編集食品学習会」

(2) 「みどりの食料システム戦略学習会」(9/14)をパルシステム連合会産直委員会と共催で開催しました。参加申込数112アカウントでした。農林水産省より「みどりの食料システム戦略」の概要の説明があり、従来の考え方(生産、流通・加工、消費)に加えて「調達」を取り入れたこと、目指す姿と取り組みの方向性、農業におけるカーボンニュートラル推進の観点、気候変動に対する新しい品種の開発、減少する農業者への省力化、環境に対する負荷軽減などの多岐にわたる説明があり、質疑を行いました。行政、生産現場、消費側が一体となって持続可能な農業に向けて進めていくことが確認できた機会となりました。

(3) 「インボイス制度学習会」(10/19)を生消協と産直事業本部共催として企画し、82名の参加(生産者52名、生協役職員30名)がありました。講師は農業経営コンサルタントで税理士の森剛一氏に依頼し、「インボイス制度導入の農業への影響」と題し、講演がありました。まずは、2019年消費税軽減税率制度実施から2023年10月「インボイス制度」導入までの実施スケジュールとインボイス制度に関する解説がありました。今後、農協特例が適用される場合を除いて、「適格請求書発行事業者」から農産物を購入したほうが農業法人は有利となるため、各生産者を抱えている産直産地は生産者への「適格請求書発行事業者」「免税事業者」に関する説明等が求められることなどが話されました。質疑応答では、現在の仕入れ方法や、任意団体である産直産地の法人形態の検討、などについて意見交換があり、各産地内での対応を検討する必要性を共有しました。



▲「インボイス制度学習会」

Ⅲ 情報発信や交流することで生産者と消費者の双方の理解を深めます

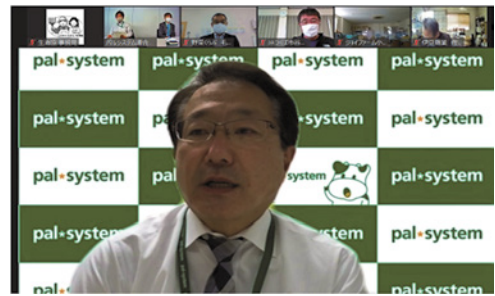
1. 従来のリアルな学習会・交流会開催が難しい状況の中で、オンラインでも交流を進めることができるような手法の研究を進め、事例を共有し、全体でレベルアップしていきます。

(1) 米部会や畜産部会などの部会活動では、産地プレゼンテーションを部会内で実施し、各産地の取り組みの共有、プレゼンテーション・動画などを使用した学習会方法の検討が進められています。

(2) 青年農業者交流会では、パルシステム・リレーションズ藤井将氏より講演があり、産直産地の生産者からの情報発信で期待されていることについて話され、オンライン・リアル形式を問わず、これからの産地としての情報発信の大切さ・手法について学びました。

2. 会員産地・生協間の情報共有の機会（ブロック会議、青果フォーラム、女性生産者交流会、青年農業者交流会）を充実させ、各産地が抱える課題や、先進的な事例などを共有し学び合います。

(1) 関東・中部ブロック会議（4/28）が開催されました。参加産地は 34 産地から 62 名、パルシステム関係者を含めると 82 名の参加でした。6 グループに分かれたグループディスカッションを行い、テーマとしては、「各産地の状況報告、オンラインによる生産者と消費者との交流、生消協 2021 年度活動」などとし、60 分程度の意見交換が各グループともに活発に行われました。「オンライン交流については前向きにとらえている産地が多く、未実施の産地でも対応していきたい旨話されていた」「オンライン交流では普段組合員を案内できない倉庫や圃場などへも紹介できる」「異常気象の中で安定供給を目指し、コロナ禍に増えた組合員の期待に応えたい」などの報告がグループ代表者から寄せられました。



▲ 渋澤温之専務理事より状況報告

(2) 東北・北海道ブロック会議（6/10）が開催されました。参加産地は 21 産地から 47 名、生消協生産者幹事、ブロック役員 14 名、消費者幹事 5 名、パルシステム関係者 10 名、合計 76 名の参加でした。「各産地の明るい話題」をテーマにグループディスカッションが行われました。代表者による発表では、思うように交流ができない中、SNS を利用した産地情報の発信や会社勤めに見切りをつけて就農をした後継者の話などが報告され、緊急事態宣言やまん延防止措置が取られている中、産地での様々な工夫などの話題が各グループで披露されていました。



▲ 東北・北海道ブロック グループディスカッション

(3) 関西・以西ブロック会議（9/1）が開催されました。21 産地から 40 名、消費者幹 7 名、パルシステム関係者 13 名、合計 60 名の参加でした。「コロナ後、パルシステムと一緒にやりたいこと」をテーマにグループディスカッションが行われました。代表者による発表では、「生産者と消費者との交流をオンラインでも頻繁に開催したい」、「産地の様子を HP や SNS 等で自ら情報発信する」、「パルシステムの産直産地の生産者同士がつながって商品開発など提案する」、「組合員の声を生産者に直接届ける仕組みの検討を」、などの意見が出されました。総じて、参加産地が消費者との交流機会を強く求めていることがわかりました。



▲ 関西・以西ブロックの参加者

(4) 青果フォーラム (10/6) が行われ、参加産地数は 35 産地 59 名、パルシステム関係者 49 名、オブザーバーとして協力会 13 名、計 121 名の参加がありました。「未来につながる持続可能な農業推進コンクール」生産局長賞受賞記念講演として澤村輝彦生産者幹事（水俣不知火ネットワーク）より講演がありました。水俣病患者の運動支援活動から始まった組織の成り立ち、これまでのあゆみ、栽培計画、地域内の資材を活用した堆肥作り、これからの課題などについて話されました。また、「産直産地の現状と今後に向けて」と題し、5 産地の生産者から報告がされました。富良野青果センターの村上代表より「2021 年大干ばつによる被害報告」、長有研の酒井代表からは 8 月の大雨被害の報告、最近の残暑による農作物の生育不良と今後の影響などについて報告、佐原農産物供給センターの土方氏よりさつまいもの「基ぐされ病」・里芋の「疫病」発生の概要について報告、大紀コープファームの王隠堂取締役より「農業の継続と地域連携」報告、JA つくば市谷田部産直部会の小川副代表幹事より、みどりの食料システム戦略の概要と生産者視点からの懸念事項についての報告があり、「パルシステムの産直産地としても引き続き環境保全型農業を継続していこう」、と呼びかけられました。



▲澤村輝彦幹事より講演

(5) 青年農業者交流会 (10/21) が開催され、合計 54 名の参加があり、生産者 21 産地 38 名、他連合会職員・消費者幹事が参加しました。「産直産地は何を情報発信すればよいのか?」と題し、パルシステム・リレーションズ藤井将氏よりお話しいただきました。産直通信を含めた媒体への組合員から要望として挙げられていることとして、「わかりやすい内容だけでなくもっと踏み込んだ深い情報」について解説がありました。その後は 7 つのグループに分かれグループディスカッションを行い、終了後に各グループから報告されました。今後の交流については、「オンラインとリアルを使い分けた交流を検討したい」、「各産地で農業現場の動画や画像を撮りためておく」、「オンラインであっても青年農業者交流会のような場で交流できることは楽しい」、「組合員と生産者が支え合う関係を築いていきたい」、などについて共有されました。



▲これからの情報発信について学びました

3. 生消協のフェイスブックなどの SNS やホームページを、「産地の今」が理解できるような場とし、多くの産地の取り組みを、広められるよう呼びかけていきます。

(1) 昨年から引き続き、フェイスブックによる会員産地やパルシステムの活動取り組み紹介を進めました。土づくりや播種作業、収穫作業の状況報告や、大雨による産地の被害状況など、産地が発信する情報について拡散し、リアルタイムな情報の提供を行ってきました。



▲フェイスブックにて産地情報発信

4. パルシステム協会との連携を進め、メーカーと会員産地との交流の機会を作り、お互いの取り組みを共有することで、地域間連携を検討していきます。

(1) 生消協・協力会連携会議(8/24)を開催しました。協力会・生消協双方の事務局より各団体の概要説明があり、各部会選出幹事より生産現場の課題や協力会との連携への期待などについて報告しました。協力会からは産地との産直関係、産直への理解を進める取り組みなどについて報告され、連携の可能性について意見交換しました。



▲生消協・協力会連携会議の参加者

(2) 協力会とともにゲノム編集学習会を開催し、また双方の講演会や学習会、会合へのオブザーバー参加を呼び掛けあうなど、例年以上に情報の共有化や交流を進めることができました。

以上のように、2021年度はオンラインによる活動が中心となりました。オンラインの特性上、移動に関わる費用や会場代等が発生しないこともあり予算執行が進まず、2021年度決算では32,240,016円の次期繰越金が発生し、年間の会費収入額22,000,000円を超過しました。決算状況を考慮し、2022年度の会費は徴収せず、次期繰越金を取り崩す形で運営することを幹事会として判断しています。

以上

2021年度 パルシステム生産者・消費者協議会 決算書

貸借対照表 2021年12月31日 現在

(単位:円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
科目	当期金額	科目	当期金額
普通預金	33,082,108	未払金	842,092
前払費用	0	預り金	0
未収金	0	仮受金	0
立替金	0	流動負債合計	842,092
流動資産合計	33,082,108	負債合計	842,092
		前期繰越金	15,831,827
		当期剰余金	16,408,189
		剰余金合計	32,240,016
資産合計	33,082,108	計	33,082,108

損益計算書

自2021年1月1日 至 2021年12月31日

(単位:円)

科目	当期金額
会費収入	22,880,000
収入計	22,880,000
委託費	3,600,000
通信費	371,109
旅費交通費	197,494
幹事会費	0
生産者運営委員	0
消費者運営委員	15,691
ブロック会議費	76,300
部会活動補助費	0
調査研究費	152,520
オンライン交流推進費	58,010
広報費	333,256
会議費	728,691
ホームページ運営費	111,100
事務所負担費	396,000
会計委託費	198,000
渉外費	133,000
アト・ハ・イサ・ー経費	55,000
消耗品費	1,105
雑費	44,748
支出計	6,472,024
事業剰余金	16,407,976
雑収入	213
雑損失	0
当期剰余金	16,408,189
前期繰越金	15,831,827
次期繰越金	32,240,016

2021年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算比較表

自 2021年 1月 1日 至 2021年 12月 31日

(単位:円)

	勘定科目(補助科目)	当期予算額	当期実績額	予算増減額	予算対比	備考
収入	会費収入(生産者)	11,000,000	11,880,000	880,000	108.0%	生産者 パルシステムグループ
	会費収入(パルグループ)	11,000,000	11,000,000	0	100.0%	
	合 計	22,000,000	22,880,000	880,000	104.0%	
支出	委託費	3,600,000	3,600,000	0	100.0%	事務局人件費
	通信費	500,000	371,109	△ 128,891	74.2%	
	(カタログ発送費)	300,000	187,100	△ 112,900	62.4%	
	(その他通信費)	200,000	184,009	△ 15,991	92.0%	
	旅費交通費	2,100,000	197,494	△ 1,902,506	9.4%	
	(公開確認会派遣)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	(産直連続講座交通費)	1,000,000	0	△ 1,000,000	0.0%	
	(ブロック会議交通費)	600,000	197,494	△ 402,506	32.9%	
	幹事会費	1,500,000	0	△ 1,500,000	0.0%	
	(交通費)	800,000	0	△ 800,000	0.0%	
	(活動補助費)	700,000	0	△ 700,000	0.0%	
	生産者運営委員会費	2,100,000	0	△ 2,100,000	0.0%	
	(交通費)	600,000	0	△ 600,000	0.0%	
	(活動補助費)	200,000	0	△ 200,000	0.0%	
	(リーダー研修補助)	900,000	0	△ 900,000	0.0%	
	(ほんもの実感!同乗研修)	400,000	0	△ 400,000	0.0%	
	消費者運営委員会	2,100,000	15,691	△ 2,084,309	0.7%	
	(青年農業者交流会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	(女性生産者交流会)	700,000	0	△ 700,000	0.0%	
	(消費者幹事交通費)	800,000	15,691	△ 784,309	2.0%	
	(活動補助費)	100,000	0	△ 100,000	0.0%	
	ブロック会議費	700,000	76,300	△ 623,700	10.9%	
	(関東・中部)	200,000	0	△ 200,000	0.0%	
	(東北・北海道)	200,000	0	△ 200,000	0.0%	
	(関西・以西)	200,000	37,300	△ 162,700	18.7%	
	(合同)	100,000	39,000	△ 61,000	39.0%	会場キャンセル代
	部会活動補助費	2,500,000	0	△ 2,500,000	0.0%	
	(米部会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	(野菜部会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	(果樹部会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	(畜産部会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	(鶏卵部会)	500,000	0	△ 500,000	0.0%	
	調査研究費	70,000	152,520	82,520	217.9%	産直データブック、書籍購入費
	オンライン交流推進費	880,000	58,010	△ 821,990	6.6%	機材運搬費・産地サポート費
	広報費	1,000,000	333,256	△ 666,744	33.3%	生消協活動広報パンフレット制作費
	会議費	2,700,000	728,691	△ 1,971,309	27.0%	
(総会費用)	2,000,000	573,631	△ 1,426,369	28.7%	会員生協別交流会補助費	
(農法研究会)	500,000	99,375	△ 400,625	19.9%	会場キャンセル代	
(協会会との交流)	200,000	55,685	△ 144,315	27.8%	学習会講師料	
ホームページ運営費	400,000	111,100	△ 288,900	27.8%	メンテナンス費用等	
事務所負担費	396,000	396,000	0	100.0%		
会計委託費	198,000	198,000	0	100.0%		
渉外費	200,000	133,000	△ 67,000	66.5%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※1	
アトハイサー経費	300,000	55,000	△ 245,000	18.3%	インボイス制度学習会講師料	
消耗品費	106,000	1,105	△ 104,895	1.0%	封筒作成、文具等	
雑費	150,000	44,748	△ 105,252	29.8%	支払手数料、賛助金	
合 計	21,500,000	6,472,024	△ 15,027,976	30.1%		
事業剰余金	500,000	16,407,976	15,907,976	3281.6%	※2	
雑収入	0	213	213	0.0%		
剰余金	500,000	16,408,189	15,908,189	3281.6%		
前期繰越金	15,831,827	15,831,827	0	100.0%		
次期繰越金	16,331,827	32,240,016	15,908,189	197.4%		

※1 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※2 総会積立金は、当協議会の周年事業を行うことを目的として2020年度剰余金見込み額と同額の500,000円を積み立てます。

2022年1月28日

パルシステム生産者・消費者協議会

監事 薄 一郎

監事 文字 悦子



監 査 報 告 書

次のように2021年度年間監査を行いましたので下記に報告いたします。

1、監査日時

2022年1月28日（金） 13:00～13:25

2、監査形式

Google meet を使用したオンライン監査

3、監査立会人

パルシステム生産者・消費者協議会 代表幹事 大津清次

パルシステム連合会 管理本部経理部 経理1課課長 小柴壮志

経理1課 影山安代

パルシステム生産者・消費者協議会 事務局 田中伸宙

4、監査範囲及び方法

貸借対照表、損益計算書、総勘定元帳、補助簿等の提出を求め、監査を行いました。

5、監査意見

会計収支は適正に処理されていることを認めます。

以上

第2号議案

2022年度活動方針並びに予算案承認の件

1、産直を通じた未来を創造します

- (1) 生産者と消費者がともに生活者としてのくらしを尊重しながら、気候変動の中での安定した農畜産物の生産・供給や自然災害への対応などの課題を共有します。
- (2) 「産直4原則」を基本に環境負荷の少ない持続可能な農業と消費の確立に向けて検討を進めます。一方で「みどりの食料システム戦略」等の学習をパルシステムと共に進め、内容の把握と会員への課題共有を行います。
- (3) 会員産地・生協の未来を担う人材育成を継続します。
- (4) パルシステム2030ビジョンを踏まえ新たな産地ビジョンづくりを呼び掛け、生産者と消費者がともに歩む未来を創造します。

2、持続可能な農業を推進します

- (1) 先端技術を活用した農業技術、農業を巡る動向の変化、食の安全を脅かす法や制度の改廃等について注視し、情報収集や学習を行います。
- (2) 新規就農者の取り組みなど労働力確保の課題について、会員産地の事例や課題を共有します。
- (3) 2021年度の活動成果を踏まえ、部会活動をさらに充実し、農法検討や交流の実践など具体的な行動に移していきます。

3、生産者と消費者・生協役職員がともに学び、お互いの理解を広げます

- (1) 学習会や交流企画を開催し、産地の取り組みへの理解促進に努めます。また、生産者と消費者、生協関係者とのつながりを深めていきます。
- (2) 交流の手法として、オンラインやリアルに加え、両方の良さを合わせたハイブリッドな開催方法の研究と実践を進めます。

4、生消協活動を発展させていきます

- (1) パルシステムの産直産地で未会員産地へ加入を呼びかけ、仲間を広げていきます。
- (2) 会員産地に生消協活動への関心が広がるように魅力ある活動を展開します。
- (3) これからの活動を発展させるべく、会議体や役員構成、活動内容などについて検討します。
- (4) 会員産地やパルシステム会員生協へも呼びかけ、各産地・生協や生消協の取り組みをHPやSNS等で発信し、リアルタイムで状況を伝えます。
- (5) パルシステム協力会と連携を進め、ともにパルシステムに関わる団体同士のよりよい関係の構築に向けて交流の場を検討します。

以上

2022年度 パルシステム生産者・消費者協議会 予算案

自 2022年 1月 1日 至 2022年 12月 31日

(単位:円)

勘定科目(補助科目)		2022年度予算	構成比	備考
収入	会費収入(生産者)	0	0%	生産者 パルシステムグループ
	会費収入(パルグループ)	0	0%	
	合計	0	0%	
支出	委託費	3,600,000	15.2%	事務局人件費
	通信費	500,000	2.1%	
	(カタログ発送費)	300,000		
	(その他通信費)	200,000		
	旅費交通費	2,400,000	10.1%	6会場へ監査人・消費者幹事を派遣
	(公開確認会派遣)	800,000		
	(産直連続講座交通費)	800,000		
	(ブロック会議交通費)	800,000		3会場へ幹事を派遣
	幹事会費	3,000,000	12.7%	講師料・幹事会合宿費、退任役員慰労会費用
	(交通費)	1,600,000		
	(活動補助費)	1,400,000		
	生産者運営委員会費	3,100,000	13.1%	講師料
	(交通費)	1,500,000		
	(活動補助費)	300,000		
	(リーダー研修補助)	900,000		
	(ほんもの実感!同乗研修)	400,000		産地研修に関わる現地移動・宿泊費
	消費者運営委員会	3,000,000	12.7%	会員生協職員向け研修会費用
	(青年農業者交流会)	600,000		産地開催での現地移動費等
	(女性生産者交流会)	600,000		産地開催での現地移動費等
	(消費者幹事交通費)	1,500,000		産地訪問・フィールドワーク交通費を予定
	(活動補助費)	300,000		講師料、産地訪問時の交流費
	ブロック会議費	1,200,000	5.1%	ブロック会議・役員会費用
	(関東・中部)	400,000		
	(東北・北海道)	400,000		
	(関西・以西)	400,000		
	(合同)	0		オンライン開催のため
	部会活動補助費	2,500,000	10.5%	各部会での学習にかかわる講演料、イベント企画費、参加補助等
	(米部会)	500,000		
	(野菜部会)	500,000		
	(果樹部会)	500,000		
	(畜産部会)	500,000		
	(鶏卵部会)	500,000		
	調査研究費	500,000	2.1%	産直データブック購入費、PCR検査キット手配費用
オンライン交流推進費	200,000	0.8%	機材運搬費・産地サポート費	
広報費	200,000	0.8%	加入促進対策費用	
会議費	1,800,000	7.6%	会員生協別交流会補助費	
(総会費用)	500,000			
(農法研究会)	300,000			
(協力会との交流)	1,000,000		講師料	
ホームページ運営費	400,000	1.7%	企画運営費・現地交流会費用等	
事務所負担費	396,000	1.7%	メンテナンス費用等	
会計委託費	198,000	0.8%	半期毎の支払い	
渉外費	200,000	0.8%	半期毎の支払い	
アト・ハ・イサー経費	300,000	1.3%	慶弔関係費、自然災害等の見舞金対応予算 ※2	
消耗品費	106,000	0.4%	会議、企画に応じ必要な方を依頼	
雑費	100,000	0.4%	封筒作成、文具等	
	100,000	0.4%	支払手数料、賛助金	
合計	23,700,000	100.0%		
事業剰余金	△ 23,700,000	-100.0%		
雑収入	0			
剰余金	△ 23,700,000			
前期繰越金	32,240,016			
次期繰越金	8,540,016		※3	

※1 前期繰越金が32,240,016円あるため、2022年度会費は徴収せずに繰越金を取り崩す形で運営していきます。

※2 自然災害等の見舞金対応予算については、該当の災害等が無かった場合は、次期繰越金とします。

※3 次期繰越金には、当協議会の周年事業費用の積立額を含みます。2020年度より年間500,000円を積み立てます。

※4 新型コロナウイルスの状況により、上記予算が計画通り進まなかった場合、2023年度会費の取り扱いについて幹事会へ一任いたします。

—資料—

- 2021年度 主要活動日誌
- 幹事会・監査活動状況
- ブロック活動状況
- 生産者運営委員会活動状況
- 消費者運営委員会活動状況
- 部会活動状況
- 「産直連続講座」活動状況
- 生消協組織規約、運営規程、会費基準及び旅費・慶弔規程

《2021年度 生消協 活動日誌 2021年1月～2021年12月》

月	日	会議・企画名	備考
1月	8日	第1回消費者運営委員会	オンライン
	13日	農法研究会・合同ブロック会議	オンライン
	21日	第1回生産者運営委員会	オンライン
	22日	組織検討委員会	オンライン
	22日	畜産部会	オンライン
	25日	第2回消費者運営委員会	オンライン
2月	4日	第1回幹事会	オンライン
3月	4日	第32回通常総会	オンライン
	4日	第2回臨時幹事会	オンライン
	5日	会員生協別交流会	オンライン
	12日	第1回米部会	オンライン
4月	5日	第3回消費者運営委員会	オンライン
	8日	第2回生産者運営委員会	オンライン
	15日	第3回幹事会	オンライン
	28日	関東・中部ブロック会議	オンライン
5月	10日	第4回消費者運営委員会	オンライン
	21日	畜産部会	オンライン
6月	4日	たまご会議	オンライン
	4日	近郊産地部会「春の部会」葉菜部会	オンライン
	7日	第5回消費者運営委員会	オンライン
	10日	東北・北海道ブロック会議	オンライン
	11日	近郊産地部会「春の部会」果菜部会	オンライン
	18日	第2回米部会	オンライン
	24日	第3回生産者運営委員会	オンライン
7月	2日	近郊産地部会「春の部会」根菜部会	オンライン
	5日	第6回消費者運営委員会	オンライン
	15日	第4回幹事会	オンライン
8月	2日	第7回消費者運営委員会	オンライン
	5日	次世代リーダー研修①	オンライン
	18日	果樹部会 りんご会議	オンライン
	23日	近郊産地部会「夏の研修会(総会)」	オンライン
	24・30日	果樹部会 みかん会議	オンライン
9月	1日	関西・以西ブロック会議	オンライン
	6日	第8回消費者運営委員会	オンライン
	9日	次世代リーダー研修②	オンライン
	14日	みどりの食料システム戦略学習会	産直委員会と共催
	17日	たまご会議	オンライン
	24日	畜産部会	オンライン

10月	4日	第9回消費者運営委員会	オンライン
	6日	青果フォーラム	オンライン
	19日	インボイス制度学習会	産直事業本部と共催
	21日	青年農業者交流会	オンライン
	28日	次世代リーダー研修③	オンライン
	29日	中間監査	オンライン
11月	4日	第4回生産者運営委員会(終了後、合同会議)	オンライン
	4日	第10回消費者運営委員会(終了後、合同会議)	オンライン
	4日	近郊産地部会「秋の部会」葉菜部会	オンライン
	11日	近郊産地部会「秋の部会」果菜部会	オンライン
	12日	女性生産者交流会	オンライン
	18日	第5回幹事会	オンライン
	24日	東北・北海道ブロック役員会	オンライン
	25日	近郊産地部会「秋の部会」根菜部会	オンライン
12月	2日	関東・中部ブロック役員会	オンライン(一部参加者は東新宿)
	6日	第11回消費者運営委員会	オンライン
	8日	次世代リーダー研修④	オンライン
	10日	米部会	オンライン
	10日	たまご会議	オンライン
	15日	関西・以西ブロック役員会	熊本開催

【幹事会】

月日	開催場所	議題
2月4日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	協議事項 第32回通常総会へ付議する議案 1) 2020年活動のまとめ並びに決算・監査報告承認の件 2) 2021年活動方針並びに予算案承認の件 3) 組織規約改定の件 4) 役員改選の件 ・種苗法関連報告
3月4日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	代表幹事・副代表幹事の選出
4月15日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	報告事項 (1) 第32回通常総会振り返り (2) 会員生協別交流会報告 (3) 2021年度各専門部会活動 (4) 2021年度パルシステムの交流計画 協議事項 (1) 次世代リーダー研修 (2) パルシステム協力会との連携
7月15日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	講演 野村和夫氏（ジーピーエス元取締役専務） 協議事項 (1) 副代表幹事・消費者運営委員長の選任 (2) 新規加入産地 報告事項 (1) ブロック会議報告（関東・中部、東北・北海道） (2) 専門部会活動報告 (3) 次世代リーダー研修
11月18日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	協議事項 (1) 2022年度年会費の取り扱い (2) 2022年度活動方針論議 (3) 2022年1月～3月催事 (4) 生消協活動報告 (5) パルシステム連合会・パル・ミート実績報告

【監査】

月日	開催場所	内容
10月29日	google meetによるWEB会議	2021年1月1日～9月30日までの半期決算監査
1月28日	google meetによるWEB会議	2021年1月1日～12月31日までの年間決算監査

【上期ブロック会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
4月28日	関東・中部	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> ・方針・実績等説明 グループディスカッション ①各産地の状況報告 ②オンラインによる生産者と消費者との交流 ③生消協 2021 年度活動
6月10日	東北・北海道	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> ・方針・実績等説明 ・グループディスカッション 「各産地の明るい話題」をテーマに意見交換
9月1日	関西・以西	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> ・方針・実績等説明 ・グループディスカッション 「コロナ後、パルスシステムと一緒にやりたいこと」をテーマに意見交換

【下期ブロック役員会議】

月日	ブロック	開催場所	概要
11月24日	東北・北海道	google meet による WEB 会議	<ol style="list-style-type: none"> 1、各産地状況報告 2、2021 年度ブロック会議の振り返り 3、次年度ブロック会議開催について 4、次々年度(2023 年)ブロック会議候補産地の検討 5、2021 年度活動方針論議 6、その他
12月2日	関東・中部	google meet による WEB 会議 (一部の役員は東 新宿事務所より参 加)	<ol style="list-style-type: none"> 1、各産地状況報告 2、2021 年度ブロック会議の振り返り 3、次年度ブロック会議開催について 4、次々年度(2023 年)ブロック会議候補産地の検討 5、2021 年度活動方針論議 6、その他
12月15日	関西・以西	TKP ガーデンシテ ィ ネストホテル熊 本 うんぜん	<ol style="list-style-type: none"> 1、各産地状況報告 2、2021 年度ブロック会議の振り返り 3、次年度ブロック会議開催について 4、次々年度(2023 年)ブロック会議候補産地の検討 5、2021 年度活動方針論議 6、その他

【生産者運営委員会】

月日	開催場所	議題
1月21日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	協議事項 (1)2021年度方針(第2次案)・部会活動・予算 特別報告 (1)次期役員体制について (2)総会・会員生協別交流会 (3)種苗法改正関連 (4)ゲノム編集食品への今後の対応 報告事項 (1)農法研究会・合同ブロック会議 (2)ブロック役員会報告
4月8日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	報告事項 (1)幹事会 (2)第32回通常総会振り返り (3)会員生協別交流会参加感想共有 (4)米部会 (5)関東・中部ブロック会議 (6)産直連続講座 (7)ゲノム編集食品オンライン学習会 協議事項 (1)次世代リーダー研修 (2)センター研修 (3)総代会・公開確認会等のイベント参加調整
6月24日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	報告事項 (1)幹事会 (2)生産者運営委員会 (3)消費者運営委員会 (4)部会活動 (5)ブロック会議報告 (6)産直委員会 (7)産直連続講座 (8)センター研修 (9)次世代リーダー研修 (10)ゲノム編集学習会報告 (11)新規加入申し込み (12)生消協パンフレット作製 (13)4月生産者運営委員会後のブロック会議・公開確認会対応者
11月4日	東新宿事務所 会議室 (Web会議)	特別報告 (1)種苗法改正 育成権者別、品目別に見る許諾の運用と生産者への影響 協議事項 (1)2022年1月～3月催事について(農法研究会内容など) 報告事項 (1)関西・以西ブロック会議報告 (2)青果フォーラム報告 (3)部会活動報告 (4)公開確認会報告 (5)次世代リーダー研修報告 (6)青年農業者交流会報告 (7)会議関係報告 (8)みどりの食料システム戦略学習会報告 (9)生消協・協力会連携会議報告 (10)ほんもの実感！センター研修 (11)インボイス制度学習会 (12)収支報告

【消費者運営委員会】

月日	開催場所	議題
1月8日	東新宿事務所会議室(Web会議)	報告事項 (1)12月消費者運営委員会の振り返り (2)都県別交流会について (3)総会について 協議事項 (1)2021年度活動方針 (2)2020年度活動まとめ
1月25日	東新宿事務所会議室(Web会議)	報告事項 (1)1月消費者運営委員会の振り返り (2)農法研究会・合同ブロック会議 (3)第1回生産者運営委員会 協議事項 (1)2021年度活動方針 (2)総会について(役割分担・その他内容)
4月5日	東新宿事務所会議室(Web会議)	報告事項 (1)第2回消費者運営委員会振り返り (2)第32回通常総会振り返り (3)幹事会 報告 (4)会員生協別交流会報告 協議事項 (1)2021年度生消協活動方針と会員生協活動方針
5月10日	東新宿事務所会議室(Web会議)	報告事項 (1)第3回消費者運営委員会の振り返り (2)幹事会 報告 (3)関東・中部ブロック会議報告 (4)東北・北海道ブロック会議報告 (5)産直連続講座進捗報告 (6)2021年度活動方針 各会員生協での方向性・意見集約について 協議事項 (1)フィールドワークに代わる産地交流について
6月7日	東新宿事務所会議室(Web会議)	報告事項 (1)第4回消費者運営委員会議事録報告 協議事項 (1)年間スケジュール、女性生産者交流会、フィールドワークについて 特別企画 「生産者幹事に聞く 産地の現況とこれから」
7月5日	東新宿事務所会議室(Web会議)	<ul style="list-style-type: none"> ・副代表幹事・消費者運営委員長互選 ・消費者運営委員会とは、生消協2021年度方針の共有 ・6月消費者運営委員会内容の共有 ・生産者運営委員会報告 ・各部会活動報告 ・今後の消費者運営委員会活動について検討(女性生産者交流会、フィールドワークに代わる取り組み提案) ・講演「パルシステム生産者・消費者協議会の歩みと消費者幹事へ求めたいこと」香取政典氏(前代表幹事)

8月2日	東新宿事務所会議室(Web会議)	<p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、第6回消費者運営委員会議事録報告 2、幹事会の振り返り 3、関西・以西ブロック会議 案内 4、近郊産地部会「夏の研修会(総会)」開催のお知らせ 5、次世代リーダー研修 準備状況 6、JA たじま 公開確認会報告 7、交流政策室報告 <p><特別報告></p> <p>「みどりの食料システム戦略」レクチャー 安原室長</p> <p><協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生産者交流会について ・9月消費者運営委員会での産地との意見交換
9月6日	東新宿事務所会議室(Web会議)	<p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、第7回消費者運営委員会議事録報告 2、生消協事務局 各報告 3、交流政策室報告 <p><協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生産者交流会について <p><特別企画></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生消協 畜産産地「宮北牧場」の産地紹介・産地意見交換会
10月4日	東新宿事務所会議室(Web会議)	<p><協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生産者交流会について 進捗状況他 <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、生消協事務局 各報告 2、2021年度生消協方針 進捗報告 3、第8回消費者運営委員会議事録報告 4、交流政策室報告
11月4日	東新宿事務所会議室(Web会議)	<p><協議事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性生産者交流会 ・仮)2分間トーク <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、生消協事務局 各報告 2、第9回消費者運営委員会議事録報告 3、交流政策室報告 4、種苗法改正について
12月6日	東新宿事務所会議室(Web会議)	<p><協議事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、2022年度生消協活動方針論議 <p><報告事項></p> <ol style="list-style-type: none"> 1、女性生産者交流会の振り返り 2、生消協事務局 各報告 3、第10回消費者運営委員会議事録報告 4、交流政策室報告

【各部会活動】

米部会

月日	開催場所	議題
3月12日	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> ・第32回通常総会報告（生消協2021年度活動方針の共有） ・2021年度米部会活動提案 ・オンライン機材の貸し出しについて
6月18日	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> ・産地プレゼンテーション (1) JA高知県 (2) 庄内産直ネットワーク（JA庄内たがわ・庄内協同ファーム） (3) JA津軽みらい ・生消協事務局報告 ・2021年産予約登録米報告
12月10日	オンライン会議	<ul style="list-style-type: none"> ・産地プレゼンテーション (1) JAいわて花巻 ・生消協事務局報告 ・生消協2022年度活動方針・米部会活動の議論

野菜部会

月日	開催場所	議題
6月4日	オンライン会議	近郊産地部会「春の部会」葉菜部会 <ul style="list-style-type: none"> ・産直事業本部より ・全体取組み「産地点検」について ・生分解プラスチックマルチ実験栽培について ・ビニール資材についての学習会
6月11日	オンライン会議	近郊産地部会「春の部会」果菜部会 <ul style="list-style-type: none"> ・産直事業本部より ・全体取組み「産地点検」について ・生分解プラスチックマルチ実験栽培について ・ネコブセンチュウ対策実験栽培について ・メーカーによるハウスのビニール素材学習会
7月2日	オンライン会議	近郊産地部会「春の部会」根菜部会 <ul style="list-style-type: none"> ・産直事業本部より ・全体取組み「産地点検」について ・生分解プラスチックマルチ実験栽培について ・里芋の疫病対策、さつまいもの立腐病学習会 ・人参の品種・栽培について
8月23日	オンライン会議	近郊産地部会「夏の研修会（総会）」 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 産直事業本部報告 ✓ 葉菜部会、果菜部会、根菜部会取り組み報告 ✓ （報告）産地ビジョン進捗状況の共有 ✓ （講演）鳥獣害対策について
11月4日	オンライン会議	近郊産地部会「秋の部会」葉菜部会 <ul style="list-style-type: none"> ① <報告>生分解性マルチ実験栽培実施状況報告 ② <協議>有機ねぎ、有機ほうれん草へのチャレンジについて ③ <報告>耐暑性ねぎ導入の経過報告
11月11日	オンライン会議	近郊産地部会「秋の部会」果菜部会 <ul style="list-style-type: none"> ① <報告>生分解性マルチ実験栽培実施状況 ② <報告>ネコブセンチュウ対策実験栽培について ③ <協議>果菜類の販売戦略について ④ <報告>IPM農法の導入生産者の拡大について
11月25日	オンライン会議	近郊産地部会「秋の部会」根菜部会 <ul style="list-style-type: none"> ① <報告>生分解性マルチ実験栽培実施状況報告 ② <学習会>種苗法改正に伴う登録品種の許諾について情報共有 ③ <協議>エコ・人参の安定供給について ④ <協議>さつまいもの基腐病について最新の情報共有 ⑤ <報告>里芋の水田栽培について

果樹部会

月日	開催場所	議題
8月18日	オンライン会議	りんご会議 ・果樹部会りんご会議立ち上げ趣旨について ・生消協交流取り組み報告 ①秋田南部圏・食と農推進協議会 オンライン交流報告 ②オンライン交流の活動紹介 ③産地動画について ・グループディスカッション
8月24日・30日	オンライン会議	みかん会議「初回打ち合わせ」 ・趣旨説明 ・部会長・実行委員選出 ・みかん会議について ・今後について

鶏卵部会（たまご会議）

月日	開催場所	議題
6月4日	オンライン会議	・連合会事業報告 ・生産選別基準に関する覚書の更新 ・納入価格計算式の検討 ・2021年度鶏卵部会取り組み内容案
9月17日	オンライン会議	【報告事項】 ・事業関連報告 ・鶏卵実績、今後の販促予定 ・卵質検査結果 ・年末年始余剰卵対策と納品スケジュール ・家畜伝染病対策について ・組合員クチコミ ・鶏卵情勢 ・各産地からの現状、活動報告 【確認事項】 納入価格計算式の検討
12月10日	オンライン会議	(1) 連合会事業報告 (2) 鶏卵情勢報告 (3) 各産地報告 (4) 納入価格計算式の検討 (5) NON-GMO 飼料の表現について (6) グループディスカッション ■テーマ 『ファンづくりのためにできることを考えよう!』

畜産部会

月日	開催場所	議題
1月22日	オンライン会議	・役員改選について ・コア・フード（畜産）基準改定の進め方について ・講演：国内における家畜疾病の情勢および防疫対策について ・国内の飼料用米情勢
5月21日	オンライン会議	・「コア・フード」商品に関しての基準（畜産）改定について ・国際飼料情勢 ・国内飼料用米情勢 ・今後の畜産部会における運用や活動について ・生消協事務局からの連絡事項
9月24日	オンライン会議	「コア・フード」商品に関しての基準（畜産）改定について 畜産部会産地プレゼン〔榎本農場の紹介〕

【産直連続講座】

	開催日	会員生協	開催産地名	講義内容	参加人数
1	7月23日 (金)	埼玉	ポークランドグループ	(株)パル・ミートより日本型畜産の取り組みや、ポークランドグループの耕畜連携や計画生産と安定消費や安心して飼育に集中することなどの説明がされ、その後、豊下氏より動画を見ながら養豚を中心とした循環型農業の取り組み、豚特有の病気持たない「SPF豚」を育てる苦勞、アニマルウェルフェアの取り組み等について説明を頂き、後半はこめ豚やポークランドの取り組みについてのクイズが出題されました。	38
2	8月23日 (月)	神奈川	常盤村養鶏農業協同組合	トキワ養鶏の概要や産直たまご、親鶏の飼育方法などを動画やパワーポイントを用い説明いただいた後、産地のおすすめレシピやクイズ、津軽弁講座など参加者も参加できる楽しい学習会となりました。参加者には事前に八峰園りんごジュースを発送し交流時に産地のジュースで乾杯しました。	25
3	9月8日 (水)	山梨	山形コープ豚産直協議会	パルシステムの豚肉、ハム・ソーセージを伝えるイベントとして開催しました。パル・ミートからは、パルシステムの豚肉についてご講演頂き、山形コープ豚産直協議会からは、普段見ることが出来ない豚舎内や、食肉公社内の映像を見せていただきながらお話を伺いました。予想以上にたくさんの質問があり、大変盛り上がりのある良いイベントとなりました。	26
4	9月17日 (金)	茨城 栃木	やはた会	参加者自己紹介、Webでの圃場見学、産地の取り組み等説明、○×クイズ、生産者・組合員交流(質疑応答) 生産者から組合員へのメッセージ閉会。当日の産地の天気を心配したが、雨にならず圃場見学も予定通りにできたので良かった。	20
5	9月20日 (月・祝)	東京	株式会社 菜の花エッグ	たまごについて(パワーポイント) 鶏舎の紹介(動画) 保存方法・美味しい食べ方 質問コーナー 組合員へ一言 「とてもためになり楽しかったです。コロナ禍で現地に行けませんがオンラインでも工夫してくださり充実してました。また、このような企画に参加したいです。非常にわかりやすく、工場などリモートで見させていただき有難うございました。」などの感想が寄せられた。	20
6	9月21日 (水)	福島	JA たじま	JA たじまから産地紹介があり、兵庫県但馬地方の地域の特徴や絶滅したコウノトリが2005年に放鳥され、使用農薬の削減から生き物が育む農法を確立。生産者の努力や特別栽培、有機栽培が広く普及するまで、2016年には学校給食のすべてがコウノトリ育むお米となり、今ではコウノトリが200羽以上確認されていることなどを学んだ。全ての参加組合員にご飯のお供として鮭ほぐしをプレゼントした。	19
7	9月24日 (金)	群馬	夢産地と さやま開発公社	学習会・質疑応答、有機しょうがを使ったジンジャーエールづくり実演し、参加者も自宅でジンジャーエールづくりを行い、しょうがシロップづくり実演、ジンジャーエールの感想報告、交流。産地の土づくり、有機しょうがの栽培について、試食メニューはすりおろして作る簡単ジンジャーエール。産地のあたたかな人柄が伝わりました。しょうがにはたくさん農薬が必要などところを有機で作っているその努力と信念に感服しました。	32
8	10月1日 (金)	山梨	佐原農産物供給センター	ZOOMでの開催、産地紹介、生産物へのこだわりのお話を聞く。佐原農産物供給センターより旬な野菜を参加者のご自宅へお届けし参加者のおすすめ料理画像として学習会内でお料理画像の紹介をおこなった。「野菜作りのご苦勞がわかり、理解を深めたなか、その上でのお送りいただいた野菜の試食ができたので、購入意欲が向上することができました。実際自分で作った料理を紹介することにより、組合員さんとの情報交換ができてよかったです」などの感想が寄せられた。	25

9	10月1日 (金)	埼玉	水俣不知 火ネット ワーク	ZOOMでの開催、澤村代表より有機農業への想い、取り組みの説明 PPT資料を画面共有(50分)ブレイアウトルーム2回転(15分×2回)閉会挨拶・記念撮影、「生産者の有機農業への熱い思いが伝わりました。お話が聞きやすかった。有機生産物の収穫量と品質のバランス、有機栽培を地域の農家に理解してもらうこと等、生産者の日々の苦労もよくわかりました。とてもいい講座でした」などの感想が寄せられた。	38
10	10月5日 (火)	埼玉	うまか有 機銘茶会	ZOOMでの開催、産地紹介、動画視聴(3分)茶畑からの中継(7分)PPT資料によるうまか有機銘茶会の紹介及び取り組みなどについて(45分) 「生産者の方々にとっても丁寧に説明していただいて、とても有意義な講座でした。ライブで茶畑の様子が見れたのもよかったです。なかなか遠方だと産地交流なども難しいですし、参加も気軽にできないので今回はオンラインで参加できてうれしく思います。」などの感想が寄せられた。	58
11	10月5日 (火)	山梨	無茶々園	無茶々園の歴史や栽培へのこだわり。現在の産地を取り巻く現状について、より多くの組合員に知ってもらいたいという思いで開催。みかん畑からの中継や、中継先で収穫したみかんを後日プレゼントして頂けるということで、とても有意義で楽しいイベントとなりました。	31
12	10月13日 (水)	千葉	旭愛農 ア グリーノ ベーショ ンカンパ ニー	取組みや養鶏についてのお話を伺いました。養鶏場の様子は防疫の観点から、動画を撮影していただき、動画を見ながら説明していただきました。お話の後に、美味しいゆでたまごの作り方を聞いて、参加者と一緒にゆでたまごの飾り切りに挑戦しました。うまくいった人も、いかなかった人も、楽しく、おいしくたまごを食べました。参加してとても良かったとのお声を多数頂きました。	27
13	10月19日 (火)	茨城 栃木	オルター トレード ジャパン	ZOOMでの開催、スラウェシ島の養殖池の整備や粗放養殖の様子のDVD視聴、日本のエビの自給率と輸入の実態、エコシユリンプの特色や定義、環境に配慮した取り組み、収穫後商品化されるまでの工程や検査の様子などを、スライドで説明。メンバーによるエビの蒸し焼き紹介、○×クイズなど行った。	25
14	10月20日 (水)	千葉	エコーた まづくり	産地概要講義とれんこん収穫の中継を行い、エコーたまづくりの理念から産地の今を組合員にお伝えし、商品の価値を伝える企画としました。千葉県内では見かける機会が少ないれんこん収穫の中継では、組合員から「初めて見ました」との声を多数いただき、れんこん栽培について理解いただくことが出来たと捉えています。	21
15	10月22日 (金)	東京	山形コー プ豚産直 協議会	ZOOMでの開催、挨拶、山形コープ豚産直協議会について(パワーポイント)、パル・ミート山形事業所の紹介(パワーポイント)、豚舎の紹介(動画)・豚の生育について、ハム・ソーセージ工場の紹介(動画) おススメの食べ方など質問コーナー	15
16	10月26日 (火)	千葉	山形コー プ豚産直 協議会	豚舎の中継を行い、授乳中の豚から出荷前の豚を見ることができました。その後に肉の加工場からポークウィンナーの製造までの動画をパル・ミート協力のもと組合員に視聴して頂きました。「命をいただいている」という事をテーマに組合員に発信し、加工品にも生産者の思いが詰まっていることを実感して頂きました。	27
17	10月29日 (金)	群馬	宮北牧場	オンライン開催でフリースタイルの交流で行いました。牛たちの動画を流し説明を進めながら、常に質問や感想が絶えることなく進み、産地紹介をとおして宮下様の人柄を感じられる講座となりました。事前に送付した調理デモンストレーションを見ながら調理をして頂きました。今後も「生産者の生(なま)の情熱・愛情をいかに参加者に伝えるか」という点を重視していかなくてはと感じた講座となりました。	39

18	10月29日 (金)	千葉	バンラート農協	ホームトンバナナの生産地であるタイのバンラート農協と中継でつながり組合員と生産者で交流をすることが実現しました。PTJ代表のペイソー様からホームトンバナナについての講義をいただいた後、圃場から中継をしました。産地のご厚意により参加者にホームトンバナナを事前に送らせていただきました。話を聞き、圃場をみて、実際に食べることで「生産者の顔の見えるバナナ」をより身近に感じていただくことができました。	33
19	10月29日 (金)	東京	JA 紀南 田辺印の会	ZOOMでの開催、JA 紀南について、田辺印の会の紹介（パワーポイント）堆肥場の紹介（動画）圃場の紹介（中継）梅の美味しい食べ方	19
20	10月30日 (土)	神奈川	JA ささかみ	Zoom オンラインによる組織イベント『パルゆめつなごう展&ハートカフェ』に米産地紹介としてご参加いただきました。番組内では、産直米と産直卵を使用した簡単料理として卵かけごはんに焦点をあて、米産地の様子について動画を使用して解説をしていただいたほか、JA ささかみの商品紹介、青木さんおすすめのお卵かけごはんの紹介していただきました。また、産直卵の産地、神奈川中央養鶏農業協同組合とも中継を結び、産地からの提案により、二産地が質問しあう場面も設けました。	43
21	11月15日 (月)	東京	農事組合法人グットファーム	ZOOMでの開催、挨拶、農事組合法人グットファームについて（パワーポイント）、圃場の紹介（静止画像をいくつか貼り付けた画像共有）、有機野菜の栽培に関する苦労話など（クイズを取り入れて）、有機野菜への拘り、野菜の保管方法	21
22	11月16日 (火)	東京	JA たじま	ZOOMでの開催、JA たじまについて（パワーポイント）、コウノトリが蘇るまで（パワーポイント）、圃場の紹介（パワーポイント）小学生が行政を動かした話、野菜の保管方法、ご飯に合うおかずやおにぎりの具にすると美味しいものを紹介、司会進行は組合員理事、最後の質問コーナーでは、JA たじま様から組合員に逆質問してもらいました。	16
23	11月25日 (木)	千葉	ちば緑耕舎	杉田代表より、産地紹介・取組み紹介をお話いただきました。「エコ・千葉こしひかり」の生産地では、自然と環境を大事に考え、技術と経験を駆使して「有機農業」に取り組んでいます。産地中継では、11月の田んぼの様子を見せてもらいました。米倉庫も見せてもらい、出荷前の米が積まれているのを見ることができました。その後は千葉こしひかりを食べ「一番好きなごはんのお供」の話など交流時間を楽しみました。	31
24	12月6日 (土)	神奈川	JA 紀南 田辺印の会	産地概要説明、生産者紹介、コア・フード梅栽培（有機を始めたきっかけ・土づくり・梅林整備・みつばち・収穫など）、地域での活動（道普請・たい肥づくり・選定講習会・目揃え会など）を説明いただき、梅林中継では、実際に枝の剪定の実演、土の中にいる生きものを見ました。また、梅を使用した料理もいただき、レシピと共に紹介、有機の梅栽培や産地の魅力を実感できる企画となりました。	25
25	1月25日 (火)	埼玉	JA たじま	JA たじま当日画面共有・コウノトリ育むお米（特別栽培米）サンプル450g「コウノトリ育むお米について」の説明・PPT資料、クイズ、圃場動画など質疑応答。組合員からは、「本日は貴重なお話をありがとうございました！親子で楽しく参加できました。有機栽培やエコ米は作るのが大変かと思いますが、子どもたちのためや地球の未来のために、安心安全なお米は本当に嬉しいです。今後も食べて応援していきます。」などの感想が寄せられた。	32

※会員生協の開催報告書をもとに事務局にて一部加筆・修正いたしました。

組 織 規 約

1990年設立総会 制定

2001年第12回総会 一部改訂

2006年第17回総会にて補強

2007年第18回総会 一部改訂

2011年第22回総会 一部改訂

2013年第24回総会 一部改定

2021年第32回総会 一部改定

この規約は、2021年3月4日より施行する

(名称)

第1条 この会は「パルシステム生産者・消費者協議会」と称する。

(目的)

第2条 この会は、パルシステム連合会とそれを構成する会員ならびに産直活動を進める生産者が、農業や食の問題を共通の課題とし、それぞれが生活者として相互連携し、それぞれに生きる「地域」を安全且つ豊かな「暮らしの場」とすることを目指し活動することを目的とする。

(構成)

第3条 この会は、パルシステムと産直活動を進めている生産団体・個人ならびに会員生協、連合会、(株)パルミートをもって構成する。

(役員)

第4条 この会は、その運営および監査のため、幹事および監事若干名をおく。

【幹事】

幹事は生産者と消費者双方から、同人数を基本とする。その選任は、生産者は各ブロック、各専門部会、消費者は会員生協及びパルシステムの推薦によるものとし、総会で選任するものとする。但し、消費者幹事は会員生協の都合により幹事会の承認を得て交代できることとする。任期は2年とし、再選を妨げない。なお、役員の数については年度ごとに幹事会で決める。

【監事】

監事は毎運営年度2度以上、会の財産および幹事の運営執行状況を監査しなければならない。監事については生産者1名・消費者1名とする。

(会費)

第5条 会費は、原則として事業高や構成員の数で決定し、個人・団体の特別会費の納入を妨げない。また、その額は別途定める。

2 会員に特別の事情がある場合は、幹事会の承認を得て、会費納入を免除することができる。

(運営)

第6条 運営については、別途「運営規程」に定める。

2 運営年度は、1月1日より12月31日までとし、毎年一回以上総会を開く。

(所在地及び事務局)

第7条 所在地及び事務局は、東京都内におく。

(改廃)

第8条 この規約の変更は、総会の決議によらなければならない。

運 営 規 程

(総則)

第1条

パルシステム生産者・消費協議会（以下、生消協）の運営規程は、加入者の意志と参加を前提として別紙の機構図にあるように会員相互の円滑な意志疎通と目的達成のために民主的な運営を保証するものである。

(総会)

第2条

生消協会員は、平等の権利を有し1会員1名の議決権は総会において保証され、総会は原則として年一回開催されるものとする。

(幹事会)

第3条

この会は次の内容で開催する。

1. 幹事会は会規約により選任された幹事で組織する。
2. 幹事会は生産者から代表幹事1名、消費者から副代表幹事1名を選任する。なお必要に応じて生産者から代表代行幹事1名を置くことができる。
3. 幹事会は代表幹事が召集する。
4. 幹事会は総会で決議した方針に基づき、日常の運営にあたる。
5. 原則として年4回の幹事会を開催する。別途必要に応じて臨時幹事会を開催することができる。

(監事会)

第4条

1. 監事は、監査について相互の連絡、協議、意見統制及び決定のために監事会を置く。
2. 監事は、代表監事1名を監事会において互選する。

(生産者運営委員会)

第5条

■生産者運営委員会

1. 生産者幹事、ブロック役員、各部会長をもって組織する。
2. この会には委員長1名をおく。
3. 会の招集は委員長が行い、年3回以上の会議を開催するものとする。
4. 会の目的は生産者のネットワーク組織のまとめ役とし、生産者の自立的課題の整理をする。

■地域ブロック

1. ブロックは、東北・北海道ブロック、関東・中部ブロック、関西・以西ブロックとする。
2. 各ブロックはブロック長・副ブロック長を選任する。但し兼任はできない。
3. 各ブロックは、年数回のブロック会議開催と、生産者同士の地域的つながりの強化と連帯を図る。また個々の生産者同志の意見交流、情報交換を行い生産向上に生かすものとする。

■専門部会

1. 米、野菜、果樹、畜産、鶏卵の5つを専門部会とする。
2. 各部会は互選により部会長1名を選任する。兼任はしない。必要に応じて副部会長をおくことができる。
3. 各部会ごとに年1～2回の部会を開催し、各品目ごとの課題解決に向けて学習、検討、実験などを行う。

■その他

必要に応じて幹事会の基に特別プロジェクト又は委員会を設置することができる。

(消費者運営委員会)

第6条

1. 消費者幹事をもって組織する。
2. この会は、組合員や会員生協の要望、意見他を生消協議会全体に反映させるためのまとめ役を行う。
3. 部会は必要に応じて開催するものとする。

(事務局)

第7条

1. 生消協の運営を円滑に進めるために事務局を置く。各種企画は、その都度実行委員会を組織してこれにあたる事ができる。
2. 代表の下に事務局会議を設置する。
3. 事務局会議メンバーは、代表幹事が指名し、会の円滑運営を目的として開催する。

会費基準及び旅費・慶弔規程

(会費基準)

第1条

①生産者団体

1. 生産者会費は最低会費を1万円としパルシステム連合会との前年度の年間取引高に基づき算定する。
2. 生産者会費基準はパルシステム仕入れ金額とする。但しわかりにくい場合は産地と相談する。

②消費者団体

1. 当該年度の総会で決定した予算に沿って、算定方法の基準により生・消協幹事会で確定する。
2. 会員生協の会費の確定方法は、原則として以下とする。
 - (ア) 消費者側(会員生協・連合会・子会社)は、当該年度の生・消協予算の概ね半分を目安に、会費として拠出する。
 - (イ) 会員生協総額、連合会、子会社の拠出額については幹事会で決める。
 - (ウ) 会員生協会費は、パルシステム(無店舗事業に限定)の当該年度の3月末登録組合員の数値(Webサーバーから抽出)を用い、その数値に応じて会員生協ごとに按分して負担する。

(会費払込)

第2条

1. 生産者側団体の会費の払い込みは、当該年度の12月末までに各団体へ請求書を発行し、1月末日までに行うものとする。
2. 消費者側団体の会費の払い込みは、当該年度の4月15日までに各団体へ請求書を発行し、4月末日までに行うものとする。
3. 賛助会員の会費額は別途相談する。
4. 取引高比例会費基準は以下とする。

基準	会費額	基準	会費額
10億円超	250,000円	5千万円超	50,000円
5億円超	200,000円	3千万円超	30,000円
3億円超	150,000円	1千万円超	20,000円
1億円超	100,000円	1千万円以下	10,000円
7千万円超	70,000円		

(役員・事務局旅費支給規程)

第3条 総則

- 1 幹事会・生産者運営委員会・消費者運営委員会・他ブロック会議、会として認められるその他会合への出席のための旅費の支給は本規定の定めによる。
- 2 自エリアのブロック会議、催事(青年農業者交流会・青果フォーラム・農法研究会・部会主催の会合など)については支給しない。

第4条 支給額算出根拠

- 1 交通費は、原則として領収書等によって確認される次の金額を支給する。ただし、領収書等による確認が困難な場合は、公共交通機関の料金及び別に定める基準によって支給する。
 - (1) 自動車等の燃料代及び有料道路使用料金、駐車料金等
 - (2) 鉄道・バス等の乗車運賃及び特急・指定席料金
 - (3) 航空賃のエコノミークラス料金
 - (4) タクシー乗車賃
 - (5) レンタカー利用代金
- 2 宿泊を伴う企画への参加の場合は可能な限り出張パック等を利用する。単独の会議（午前中のみ、または、午後のみ）などで前泊・後泊での参加の際、算定期間は1泊2日とし、交通費・宿泊費補助の上限を5万円とする。2日間連続しての会議参加の場合はこの限りではない。
- 3 当協議会活動と他業務と並行する場合、交通費・宿泊費総額の半額を支給する。

第5条 支給方法

- 1 会合開催日から1ヶ月以内に事務局へ経路や経費を明記した清算書を提出し支給する。

第6条 規定の改廃

- 1 この規程の改廃は、幹事会が行う。

(慶弔規程)

第7条

- 1 生消協の関連団体の慶弔に関する事項は、この慶弔規定による。金額などの裁定は代表が決定する。
- 2 その他生消協関連団体の慶弔については、原則として生消協が会員を代表して行うものとする。
- 3 この規定の変更は幹事会の議決により行う。

(事務局)

第8条

- 1 事務局の選任は幹事会が行う。
- 2 雇用は連合会が行う。
- 3 その他必要事項については幹事会が裁定する。

2020年2月7日改定

パルシステム生産者・消費者協議会 会員名簿

北海道・東北ブロック	
1	あいづグリーンネットワーク
2	会津よつば農業協同組合
3	秋田ふるさと農業協同組合
4	花巻農業協同組合
5	うもれ木の会
6	株式会社エプロン
7	有限会社大牧農場
8	大潟村産直会オーリア21
9	雄勝りんご生産同志会
10	奥中山高原農協乳業株式会社
11	音更町農業協同組合
12	株式会社花兄園
13	かづの農業協同組合
14	北いぶき農業協同組合
15	黒田ファームグループ
16	有限会社ゴールド農園
17	小清水町農業協同組合・健土塾
18	こまち農業協同組合
19	士別市多寄有機農業研究会
20	農事組合法人士別農園
21	農事組合法人庄内協同ファーム
22	庄内たがわ農業協同組合
23	新みやぎ農業協同組合
24	津軽みらい農業協同組合
25	合同会社 天童果実同志会
26	常盤村養鶏農業協同組合/農事組合法人八峰園
27	ノーザンビーふ産直協議会
28	有限会社花咲農園
29	ふくしま未来農業協同組合
30	有限会社富良野青果センター
31	ポー克蘭ドグループ
32	までっこチキン生産者連絡協議会
33	株式会社丸公
34	株式会社マルタ
35	みちのく野菜倶楽部
36	山形おきたま農業協同組合
37	山形コープ豚産直協議会
38	株式会社米沢郷牧場

関東・中部ブロック	
39	青木農園
40	株式会社アグリノベーションズカンパニー
41	有限会社旭鶏園
42	あじたま販売株式会社
43	有限会社アップルファームさみず
44	有倉きのご園
45	アルプス農業協同組合

関東・中部ブロック	
46	五十嵐菌茸株式会社
47	有限会社伊豆鶏業
48	みなみ魚沼農業協同組合
49	農事組合法人エコータまづくり
50	えちご上越農業協同組合
51	遠州中央農業協同組合
52	有限会社小川和男養鶏場
53	株式会社オルター・トレード・ジャパン
54	勝沼平有機果実組合
55	神奈川中央養鶏農業協同組合
56	金沢市農業協同組合
57	かなもと青果株式会社
58	有限会社北浦軍鶏農場
59	北蒲みなみ農業協同組合
60	峡南鶏友会
61	有限会社ギルド
62	有限会社黒富士農場
63	農事組合法人グットファーム
64	久望農園
65	くらぶち草の会
66	BM自然塾 有限会社謙信の郷
67	農事組合法人埼玉県産直協同
68	佐久浅間農業協同組合
69	佐久ゆうきの会
70	ささかみ農業協同組合
71	佐渡農業協同組合
72	農事組合法人佐原農産物供給センター
73	有限会社サンドファーム旭
74	サン・ファーム
75	三里塚農法の会
76	澁谷養鶏農場
77	株式会社JAしみずサービス
78	首都圏とんトン協議会
79	有限会社ジョイファーム小田原
80	常総センター
81	常総ひかり農業協同組合 産直研究会
82	特定非営利活動法人食農ネットささかみ
83	ゼスプリ インターナショナル・ジャパン株式会社
84	農事組合法人村悟空
85	株式会社第一清瀬出荷組合
86	株式会社ちば風土の会
87	ちばみどり農業協同組合海上野菜組合産直部
88	有限会社ちば緑耕舎
89	つくば市谷田部農業協同組合 産直部会
90	有限会社寺島農場
91	東光寺生協葡萄協力会
92	有限会社栃木元気会

関東・中部ブロック	
93	とちのみ会
94	有限会社トッピーバー
95	利根川生産者グループ
96	株式会社ナカショクミートフーズ
97	有限会社中山食茸
98	株式会社菜の花エッグ
99	にいがた南蒲農業協同組合
100	株式会社ニッコー
101	有限会社日本の稲作を守る会
102	白州 森と水の里センター
103	株式会社花園たまや
104	農事組合法人葉菜野果産直
105	バンラート農業協同組合
106	株式会社ファーマン
107	フォレスト・ファーム
108	有限会社フレンズファーム
109	ホクレン農業協同組合連合会
110	マルハニチロ株式会社
111	三浦半島EM研究会
112	農事組合法人御坂うまいもの会
113	南伊豆太陽苑生産者グループ
114	南埼玉産直ネットワーク
115	ももっこファーム山梨
116	株式会社野菜くらぶ
117	やさと農業協同組合
118	株式会社八街産直会
119	農事組合法人八千代産直
120	やはた会
121	有限会社山口養豚場
122	有機栽培あゆみの会
123	有限会社沃土会
124	農事組合法人郷園

関西・以西ブロック	
125	イシハラフーズ株式会社
126	うまか有機銘茶会
127	株式会社沖縄物産企業連合
128	おても会
129	鹿児島くみあい食品株式会社
130	鹿児島くみあいチキンフーズ株式会社
131	かごしま有機生産組合
132	紀南農業協同組合 田辺印の会
133	紀ノ川農業協同組合
134	有限会社九州青果物流通センター
135	有限会社草枕グループ
136	有限会社高生連
137	高知県農業協同組合
138	株式会社さかもとふる一つ
139	株式会社ささ営農
140	さんまる柑橘同志会
141	有限会社島原自然塾
142	農事組合法人しもつコープファーム
143	株式会社すすき牧場

関西・以西ブロック	
144	有限会社大紀コープファーム
145	農事組合法人たいよう農園
146	たじま農業協同組合
147	株式会社長有研
148	株式会社鳥越ネットワーク
149	農事組合法人ながさき南部生産組合
150	有限会社なかむら農園
151	西宇和果実出荷組合
152	西日本有機農業生産組合
153	広島県果実農業協同組合連合会
154	福岡八女農業協同組合
155	株式会社フレッシュダイレクト
156	有限会社真南風
157	有限会社マルハ園芸
158	肥後あゆみの会 水俣・不知火ネットワーク
159	株式会社地域法人無茶々園
160	有限会社やさか共同農場
161	一般財団法人夢産地とさやま開発公社
162	有限会社ゆらぎふぁーむ
賛助会員	
163	えりも漁業協同組合
164	大隅地区養まん漁業協同組合
165	恩納村漁業協同組合
166	有限会社カネモ
167	釧路市漁業協同組合
168	富栄海運有限会社 唐津営業所シーボーン昭徳
169	全国漁業協同組合連合会
170	長崎県漁業協同組合連合会
171	野付漁業協同組合
172	北海道漁業協同組合連合会
パルシステム関係	
173	生活協同組合パルシステム東京
174	生活協同組合パルシステム神奈川
175	生活協同組合パルシステム千葉
176	生活協同組合パルシステム埼玉
177	生活協同組合パルシステム茨城 栃木
178	生活協同組合パルシステム山梨
179	生活協同組合パルシステム群馬
180	生活協同組合パルシステム福島
181	生活協同組合パルシステム静岡
182	パルシステム生活協同組合連合会
183	株式会社パル・ミート

■会員数（2022年3月1日時点）

東北・北海道ブロック	38会員
関東・中部ブロック	86会員
関西・以西ブロック	38会員
賛助会員	10会員
パルシステム関係	11会員
合計	183会員



パルシテム生産者・消費者協議会